

令和年 7 年度 つくばサイエンス・アカデミー事業報告

1 研究開発奨励事業

茨城県内における科学技術の振興及び産業の発展に寄与するとともに、本県の科学技術の水準を広く全国に P R するため、以下の者に対し各賞を授与し、授賞式及び受賞記念講演会を実施した。

ア 受賞者及び研究主題

①2025 年度 江崎玲於奈賞

九州大学大学院工学研究院応用化学部門 主管教授

/先端有機光エレクトロニクス研究センター長

安達 千波矢氏

「有機二重ヘテロ構造の構築と新しい発光分子の創製による有機 LED の高性能化」

②2025 年度 つくば賞

物質・材料研究機構 フェロー

高田 和典氏

「全個体電池の研究開発」

③2025 年度 つくば奨励賞

○実用化研究部門

物質・材料研究機構 構造材料研究センター

耐熱材料グループ 主任研究員

Wu Rudder 氏

「持続可能な未来を支える革新的なマテリアル・イノベーション：TIISA 断熱材技術の展開と社会実装」

○若手研究者部門

筑波大学 システム情報系准教授

/高等研究院 (TIAR) /自発研究ユニット フェロー

海老原 格氏

「水中における通信と測位を実現する音響無線技術に関する研究」

イ 授賞式及び受賞記念講演会

開催日 令和 8 年 2 月 1 3 日 (金)

場 所 つくば国際会議場 Leo Esaki メインホール

2 研究交流促進事業

○S A T フォーラム

会員やその家族、一般の参加も広く呼びかけ、最先端の研究者を招いてフォーラムを開催した。

開催日：令和 7 年 7 月 1 6 日 (水)

場 所：つくば国際会議場 Leo Esaki メインホール

参加者：7 8 2 名

演 題：ゴリラから学んだ人類の過去と未来

講 師：総合地球環境学研究所 所長 /前京都大学総長

山極 壽一氏

○SATつくばスタイル交流会

広く会員以外の方にも参加を募り、サイエンス&アートをテーマに、講演会と音楽鑑賞会などを組み合わせた交流会を開催し、SATの周知と市民との交流を促進した。

開催日：令和7年11月29日(土)

場 所：つくば国際会議場 中ホール 200

参加者：124名

◇講演会

演 題：地球内部環境の実現による材料合成研究

－高温高压下でのダイヤモンドと関連物質の合成と機能開拓－

講 師：物質・材料研究機構 理事 フェロー

/ナノアーキテクトニクス材料研究センター長

谷口 尚氏

◇芸術の部

弦楽トリオコンサート

チェロ：宇野 陽子氏 ヴァイオリン：間野 久美子氏 ヴィオラ：柳沢 朋子氏

○研究情報交換会

研究者による研究状況報告と参加者との意見交換などを行う小規模交流会を開催した。

[第20回]

開催日：令和7年8月6日(水)

場 所：つくば国際会議場サロン・レオ及びオンライン(ハイブリッド)

参加者：24名

テーマ：電子顕微鏡法の現状と今後 その4

話題提供者：

筑波大学 生存ダイナミクス研究センター 准教授

安達 成彦氏

「筑波大学における共同利用型 3DED/microED の立ち上げと運用」

物質・材料研究機構 若手国際研究センター

ICYS リサーチフェロー

中澤 克昭氏

「ガラス材料の観察のための5次元走査型透過電子顕微鏡法」

○サイエンス・シニアサロン in Tsukuba

退職したシニア研究者・技術者あるいはサイエンスに関心のある方々を対象に、講師が様々な研究分野の話題について、自由な討論を通じて参加者の知的触発や人的交流を図るサロンを開設し開催した。

[第6回]

開催日：令和7年4月23日(水)

場 所：つくば国際会議場

参加者：38名

テーマ：だまされがちな火災事故の調査報告書

講 師：有限会社 ベルアソシエイツ

鈴木 弘明氏

[第7回]

開催日：令和7年6月11日(水)

場 所：つくば国際会議場

参加者：56名

テーマ：ヒト 石に惹かれる

講 師：産業技術総合研究所 名誉リサーチャー

青木 正博氏

[第8回]

開催日：令和7年9月25日(木)

場 所：つくば国際会議場

参加者：53名

テーマ：教科書神話の賞味期限・生物とは何か？

講 師：筑波大学名誉教授

林 純一氏

[第9回]

開催日：令和7年10月16日(木)

場 所：つくば国際会議場

参加者：47名

テーマ：教科書神話の賞味期限・ゲノムとは何か？

講 師：筑波大学名誉教授

林 純一氏

[第10回]

開催日：令和7年12月15日(月)

場 所：つくば国際会議場

参加者：35名

テーマ：なぜ、津波情報・注意報は24時間以上続いたか？

カムチャッカ地震の場合

講 師：静岡大学防災情報センター 客員教授 /元気象庁地磁気観測所所長

/元気象庁地震津波監視課精密地震観測室 室長 石川 有三氏

[第11回]

開催日：令和8年2月17日(火)

場 所：つくば国際会議場

参加者：54名

テーマ：震源の3次元投影による首都圏地震モデル

講 師：防災科学技術研究所 客員教授

石田 瑞穂氏

3 研究産業交流事業

○SATテクノロジー・ショーケース2026

つくばの各研究機関等と連携して、様々な分野の研究者による研究発表を通じて研究者と企業等との交流を深め、知の触発による科学・技術の成果を産業に活かすための事業を行った。

開催日：令和8年1月22日(木)

会 場：つくば国際会議場

参加者数：374名

開催形態：対面開催

ホームページ(HP)にアブストラクトを掲載

ポスターは当日の会場に掲示したほか、HPに掲載

インデクシング、特別シンポジウム等の様子を、YouTube でライブ配信し、

その後アーカイブ配信

【内容】

- ・ポスター発表 147件(一般 145件、つくば発注目研究 2件)
- ・企画展示 2件(つくば市、茨城県)

- ・共催機関広報展示 13 機関
- ・先進技術企業展 7 社
- ・特別シンポジウム関連展示（産業技術総合研究所）
- ・発明無料相談コーナー（日本弁理士会関東会）
- ・特別シンポジウム（企画：産業技術総合研究所）
テーマ『未来』を描くマテリアルー身近なものから∞までー」

■特別講演

座長 小原 春彦 産業技術総合研究所 副理事長

①革新材料が拓く産業の『未来』

講師 濱川 聡 産業技術総合研究所 上級執行役員

②D X手法が拓く材料開発の『未来』

講師 出村 雅彦 NIMS 技術開発・共用部門 部門長

③食薬資源が拓くセルフケア時代の『未来』

講師 礪田 博子 筑波大学 生命環境系 教授

④シルクが拓く新素材の『未来』

講師 亀田 恒徳 農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門
絹糸昆虫高度利用研究領域 新素材開発グループ グループ長

⑤複合素材が拓く新素材の『未来』

講師 平野 義鎮 宇宙航空研究開発機構 経営企画部企画課 参事

■パネル討論

モデレーター：濱川 聡

パネリスト：出村 雅彦、礪田 博子、亀田 恒徳、平野 義鎮
(特別講演の講演者4名)

・オンライン配信

*ショーケース特設ページ閲覧数

1/22(当日) 2,295 回 (うちポスター閲覧数 993 回)

1/20～1/21 3,942 回 (同上 2,591 回) 【事前掲出】

1/23～2/28 6,970 回 (同上 4,514 回)

*YouTube ライブ配信の同時最大視聴数 11 名

1/22～2/28 視聴回数 (ライブ配信含む) 662 回

・プレゼンテーション賞の表彰

参加者の投票により、発表内容が優れていると認められた発表者を表彰し、賞状が授与された。

4 共催事業／つくば科学・技術産業イニシアティブ

開催日	開催内容	形態 参加者数
189回 5月16日(金)	①「宇宙技術ハイパースペクトルによって病も飢えも争いもない世界を実現する」 中矢 大輝 Milk(株) 代表取締役 CEO ②「迫る 2050 年問題。食糧危機に日本はどう備える？～宇宙でも使われる植物工場技術で食糧生産と育種の超効率化を達成する～」 椎 光義 (株) ジャパンプランツテクノロジーズ 代表取締役	ハイブリッド 37名
190回 7月10日(木)	①「持続可能な農業の実現に向けて～有機農業の推進の取組～」 今林 利恵子 農林水産省農産局農産政策部農業環境対策課 課長補佐 ②「機能性食品開発から見た日本の農業と未来」 立崎 仁 (株) 常盤植物化学研究所 代表取締役社長	オンライン 46名
191回 9月8日(月)	①「Well-being な社会の実現に向けて:つくばデジタルバイオ国際拠点における活動」 西山 博之 つくばデジタルバイオ国際拠点PL ②「SIPでの研究成果や軽度不調に関わるセルフケア食の開発」 山本(前田) 万里 農業・食品産業技術研究機構 食品研究部門エグゼグティブリサーチャー/筑波大学グローバル教育院・教授	オンライン 38名
192回 11月11日(月)	①「日本が豊かに成長していく上での構造的課題と成長・分配政策の方向性」 新原 浩明 米国ハーバード・ビジネススクールエグゼクティブ・フェロー/前内閣審議官	ハイブリッド 43名
193回 1月29日(木)	①「国際性と学際性による研究力強化、そして Global Trust の創造性へ」 永田 恭介 筑波大学長	ハイブリッド 43名
194回 3月17日(火)	①「フューチャー・デザイン」 西條 辰義 京都先端科学大学国際学術研究院 特任教授 ②「まちづくりにおけるフューチャー・デザインの活用～岩手県矢巾町の事例から～」 高橋 雅明 岩手県矢巾町教育委員会事務局学校教育課長 ③「教育におけるフューチャー・デザインの理解と活用」 岡本 剛 フューチャー・デザイン・コンソーシアム代表	オンライン 28名

5 広報活動の推進

- ・会誌の発行（45号：12月）
- ・ホームページの管理運営 <https://www.science-academy.jp/>

令和7年度 SAT会員の状況

会員種別		R6.4.1	退会	入会	R8.4.1
個人会員	一般会員	213	20	19	212
	特別会員	52		2	54
	名誉会員	3			3
	学生会員	1			1
	計	269	20	21	270
賛助会員		52	4	4	52

令和7年度 つくばサイエンス・アカデミー収支計算書

(単位：円)

項 目	当初予算額	決算見込額	増減額
事業活動収入			
補助金等(茨城県から)	6,376,000	5,562,324	△ 813,676
負担金(テクノロジー・ショーケース)	2,830,000	2,330,000	△ 500,000
会費	4,394,000	4,412,000	18,000
賛助会員	3,500,000	3,600,000	100,000
個人会員	894,000	812,000	△ 82,000
雑収入	195,000	410,547	215,547
参加費等	195,000	409,700	214,700
受取利息	0	847	847
他会計からの繰入金	5,698,000	5,509,326	△ 188,674
当 期 収 入 合 計	19,493,000	18,224,197	△ 1,268,803
事業活動支出			
研究・交流促進事業	14,204,000	13,078,463	△ 1,125,537
給料・賃金	10,386,000	9,853,296	△ 532,704
福利厚生費	50,000	43,267	△ 6,733
諸謝金	770,000	750,000	△ 20,000
旅費	150,000	138,037	△ 11,963
印刷製本費	70,000	0	△ 70,000
消耗品費	80,000	46,934	△ 33,066
会議費	1,520,000	1,422,114	△ 97,886
通信運搬費	350,000	295,804	△ 54,196
委託料	70,000	56,975	△ 13,025
広告宣伝費	580,000	347,116	△ 232,884
負担金	88,000	88,000	0
手数料	30,000	0	△ 30,000
雑支出	60,000	36,920	△ 23,080
テクノロジー・ショーケース運営事業	5,289,000	5,145,734	△ 143,266
旅費	20,000	0	△ 20,000
消耗品	30,000	6,875	△ 23,125
会議費	2,515,000	2,601,144	86,144
通信運搬費	110,000	95,150	△ 14,850
委託費	2,300,000	2,156,000	△ 144,000
広告宣伝費	310,000	284,350	△ 25,650
租税公課	1,000	400	△ 600
雑支出	3,000	1,815	△ 1,185
当 期 支 出 合 計	19,493,000	18,224,197	△ 1,268,803
当 期 収 支 差 額	0	0	0

※主な増減について

- 収入
 - ・職員人件費の減に伴う県補助金の減
 - ・ショーケースポスター発表費が無料となる学生の割合が増加したことによる負担金の減
 - ・SATフォーラム参加者の増加による雑収入（参加費）の増
- 支出
 - ・事務局人件費の減による給料・賃金の減
 - ・広告宣伝費 会誌送付に配送サービス（DMソリューション）を利用したことによる送料の減
 - ・委託費 一般競争入札の結果による減

※ アカデミー会計は、(一財)茨城県科学技術振興財団会計の一部であり、財団監事の高橋日出男氏、篠原智氏2名の監査を受けております。